

## (フィールドレポート February 6. 2026)



低気圧が発達しながら日本海を北上接近中の、昨夜 21:00 頃から低気圧前面降雪が始まり、積丹半島沖を最も接近通過のタイミングの午前 3:00 から西寄りの風雪が強まる。今朝までに約 20 cm の降雪、風下側 (Lee) では、その 2~3 倍の Wind Slab 吹き溜まり発達。積雪層内の雪は低気圧降雪の雪質と気温低下が相まって霜系で、2/4 層は Weak Interface になる。低気圧通過後、再び強い寒気 ( $-36\sim-39^{\circ}\text{C}@5,500\text{m}$ ) に覆われると共に、北海道には 7 本の等圧線がかかる、非常に強い冬型の気圧配置になり風雪がさらに強まる。

吹雪の最中で降り積もる雪自体が不安定で、構造的脆弱性と大量降雪による雪自体の自重を支えきれず、雪崩を誘発するトリガーとなる可能性が高い。このような状況下で人為的に刺激をさらに加えれば、雪崩を誘発する確率はさらに高くなる。今日から明日にかけては要注意で、特に急斜面 30 度以上、風下側 (Lee) 吹き溜まり及び雪庇やノールとその下、沢地の法面等は要注意で、必要なければ入らないことを心掛けたい。

また、ニセコでは常識のように、大荒れの日には風下側で風を交わす地形を選んで山に入る人が大勢いるが、風下側に Wind Slab 吹き溜まりはできる！また森の中は樹々がアンカーになり雪崩は起こらないと錯覚している人が多いが、木の間を気持ちよくターンをして滑れるスペースがあれば、そこは雪崩のポテンシャルゾーンである！そこが急斜面 30 度以上であれば、雪崩の 3 つの前提条件を満たし、そこに原因が加われば確実に雪崩れる。降雪推移も含めて冷静な判断と慎重な行動ができれば、たいていの雪崩事故は回避できる。

今シーズンは雪崩事故以外のアクシデントが大変多く、その中でも遭難救助要請がニセコだけではなく、日本各地で多発している。ルートを把握せずに安易にスマホのアプリや SNS の情報をもとに山に入ったり、他人やまたは他人のトラックを安易追って迷子になっているケースが目立つ。先日も後をついて来られたり、視界が悪く吹雪の山中で迷ってし

まっているスノーボーダーに出会った。特に雪深い今シーズンは歩いたり登ったりするための用具を持たずに、雪の中で安易にボードやスキーを外してしまうと、胸くらいまで埋まって脱出ができなくなり遭難に繋がってしまうケースが多々あるので用心を！

1月後半から現在進行形で、ニセコパノラマライン行き止まり（五色温泉方面への分岐）地点での片側一車線を埋め尽くす縦列駐車には閉口する。ブラインドのカーブでは上下双方共に見通しが悪いので、事故に繋がる危険性が大きい！また、五色温泉公共駐車スペースも車を止めきれずに、縦列駐車道路片側一車線を使っている日がある。この日は外国人の乗ったキャンピングカーが車中泊をして、早朝の除雪ができずに、駐車スペースを確保できていなかったという事情もあったが、それにしても酷い！

この駐車問題どうしたらいいのか？まずはモラルを持って車を利用してもらい、アナウンスは必要だと思う。そのうえで警察が取り締まるのか？「駐車するな」ではなく、駐車できるように駐車スペースを作るのか？この場合、除雪費用が余分にかかるので、この費用はニセコエリアの町村が一体となって、例えばツーリストから徴収する宿泊税を充当するのではどうだろうか？オーストリア・チロル等のスキーリゾートでは、州・町村及びその土地の観光協会が一体となって、年度ごとにリゾート整備や事業発展の為に目的を明確に公表して、ツーリストから宿泊税を徴収して整備事業費用に充当している。